

平成24年度 第2回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日時】 平成24年9月3日（月） 午後3時～5時
- 【場所】 BIZ新宿（区立産業会館） 多目的ホール
- 【出席者】 委員：植田浩史、河藤佳彦、松尾武司、下吹越一孝、渡邊裕晃、志村一夫、加藤仁、富田篤、
益田佳代子、酒井学雄、河島正日、奥山龍一各委員
事務局：加賀美地域文化部長、中川産業振興課長、荒井産業振興係長、久野主任主事、
後藤産業創造プランナー

【欠席者】 川名和美委員

【傍聴者】 1名

【内容】

1 開会

植田浩史会長あいさつ

2 議事

(1) 平成24年度第1回産業振興会議の確認

資料1に基づき、平成24年度第1回議事要旨は、会長確認後、新宿区ホームページに公開済みとの事務局より報告を行った。

(2) 産業振興施策の方向性と産業振興会議スケジュール

資料2、3に基づき、事務局より説明した。

(3) 専門部会テーマ「商店街」の報告

○実施報告

資料4に基づき事務局より報告し、専門部会「商店街」委員より報告の補足をした。

補足

- ・商店街の活性化には個店の発展も重要なので、商店街の枠を超えておもしろいことをやっているとか、個店同士が結びつくというところに助成できる制度が必要ではないか。
- ・商店街診断や勉強会をやると、「こうしなさい、ああしなさい」と上からの指導型になっているのではないか。これらを受けた会長は一生懸命取り組むけれども、商店会運営のメンバーにまで指導が組み込まれていない。そういうところの配慮が必要ではないかと思う。

○意見交換（主な発言内容）

商店街の活性化

- ・どこでも誰でもやっているというようなものではなく、そのまちだけが持っている核になるものを作っていく。きっかけとアイデア次第で商店街は活性化していくと思う。地域に根差したものを考えていくと、商店街も活性化していくのではないか。
- ・商店街の活性化を、全て商店街の人たちが担うというのではなく、学生や地域に住んでいる若者が商店と関係なく始めたイベントなどに商店街が相乗りすることや、商店の人たちが手伝うことがあってもよい。
- ・今商店街は、革新期に来ている。イノベーション、変わらなくてはならないという時期に来ているということを知ることが大事である。また革新するために、商店会のビジョンを持つことが大切である。それぞれの商店街にはやりたいことがあるだろう。それを実現するためのビジョンを持てば、前向きに商店会運営ができるのではないか。

- ・新しい方向に目を向けて、後継者の育成や商店会の運営の仕方、考え方や方法を変えなくてはいけないのではないかと。

施策の方向性

- ・商店街の悩みは非常に多く、その悩みに応えていき、頑張っていこうとしている人たちを支援していくことが必要である。
- ・「こういった形で、こう頑張っている商店街があります」という具体例、あまり遠方のもではなかなかイメージしにくいので、近郊での具体例を提供してあげるとよい。
- ・商店街の人々が勉強できる場を積極的に作っていく。勉強する場も時間も、参加しやすさを考えて、柔軟に対応していくことが必要ではないかと。
- ・商店会のマネージメントを懇切丁寧に支援していく必要があるのではないかと。
- ・イベントや勉強会、商店表彰で商店街は活性化するきっかけをつかめると思う。区や商店会連合会はそれをサポートし、みんなで商店会を盛り上げていく気持ちになれるとよい。
- ・商店街が常に活性化していくには、新しいことに挑戦していき、トライしていくことが必要だろう。区はこれを支えていくような施策づくりをしていかなければいけないと感じる。それはお金を使うということよりも、やる気をサポートするものではないかと。具体的な事例を提示しながら、ビジョンをイメージしてもらい、そういうものが必要だと思ふ。

(4) 専門部会テーマ「中小企業」の報告

○実施報告

資料5に基づき事務局より報告し、専門部会「中小企業」委員より報告の補足をした。

補足

- ・予算には限りがあるから、施策はピンポイントでやらざるを得ない。ピンポイントでやって成果が出たら、それを横に展開していくと、効果が生まれてくるのではないかと。区の施策を使ってよくなった事例をフィードバックすると良いのではないかと。
- ・区はこれからも産業施策に取り組む重要な役割を担うことになる。効果的な施策を考えるために、積極的に企業を知りに行くことが非常に大事ではないかと。
- ・区は企業訪問し、その企業がどんな施策を必要としているのかということ把握して、それに対する施策を紹介すれば、企業も施策を有効に活用できる。
- ・中小企業は技術をもっているが、それをどう表現したらいいのか、書類の書き方や制度のどういうところがポイントなのか分からないということがある。そこを専門家が指導するということがあってもいいのではないかと。また、成功事例を、講習会などで紹介すれば、他の中小企業の励みになると思う。区はそのような場や仕組みを作って、制度の内容や申請方法などをきちんと伝えていく必要があるのではないかと。
- ・新宿ビジネス交流会では、マッチングした企業で新しいアイデアや商品などが生まれたら、それを支援していくような形にすれば新宿区独自の支援になると思う。

○意見交換（主な発言内容）

施策の方向性

- ・他のところで行っているのと同じものではなく、新宿区だからこそできることや、「新宿だからこんなことやってみたい、あんなことやってみたい」というものを活かせる、ビジョンを持てる、そういった形のもがあるのもいいのではないかと感じた。
- ・事業が行われた当該年度については分かるが、それ以降については、必ずしも継続的なフォローアップはされていないのは課題だと思ふ。
- ・施策を利用して頑張っていこうとする企業は1回の単年度の施策だけでなく、継続的にいろいろな施策を活用

していこうという意欲が高まってくるようである。利用する施策は区の施策だけではなく、国や都などの施策も活用している。区は、こういった企業と、継続的にいろいろな形で連携を行っていくことが大切ではないか。

施策の周知方法

- ・「ビジネスアシスト新宿」という事業は、新宿区のホームページを見ても、どのような相談に乗ってもらえるのかが分からないので、そこを工夫して周知すれば、区の施策もうまく活用されるのではないか。
- ・区の施策を知ってもらうためには地域の経済団体や金融機関、また企業の相談にたずさわる中小企業診断士や会計事務所などのネットワークを活用する。そして施策のパンフレットに成功事例などの情報を入れ、付加価値をつけ、施策の周知に協力してもらえば、非常に効果が高くなると思う。
- ・区は施策情報を今までいろいろな形で流してきているが、必要なところに届いているのかということと必ずしも届いてないという現状を認めなければいけない。その情報をもっとも必要としているところに届けるということが一番大事である。

(5) 専門部会テーマ「施設」に関する現状把握及びメンバー確認

○説明

資料6に基づき、事務局より説明

○意見交換（主な発言内容）

- ・これだけ立派な施設があるのに戦略的な利用というのが非常に少ないと思う。区の主催でセミナーが開催されているようだが、まだまだ開拓の余地はあるのではないか。非常に利用度が低い部分についての仕掛け作りをする必要がある。
- ・BIZ新宿の存在、会議室の貸し出しの情報、区外の方も利用できるということのアピール手段を考え伝えていかないと、利用されない、利用したくても利用できないということになってしまうのではないか。
- ・入場料を徴収できないとなると、企業が施設を使いづらいのではないか。
- ・近隣にホテルが多々あるので、ホテルと提携して、宿泊付きというのも考慮してもいいのではないか。
- ・せっかくこのような施設があって、産業振興・中小企業振興のための施設として位置づけられているので、多くの中小企業や産業団体が、うまく活用できるような形にしていく必要がある。

○メンバー確認

現段階でメンバーの追加はなかった

3 次回日程について（予定）

第3回産業振興会議

日 時：平成25年1月28日（月） 午後3時～5時

会 場：BIZ新宿 多目的ホール

〈参 考〉専門部会「施設」

日 時：平成24年11月19日（月） 午後3時～5時

会 場：BIZ新宿 研修室C

4 閉会

【配布資料】 省略